

中村哲とハンセン病

—— 記録映画『荒野に希望の灯をともし』『かづゑ的』を通して語る

場 所：九州大学医学部 百年講堂

福岡市東区馬出3丁目1-1

(地下鉄馬出九大病院前駅より徒歩8分)

入 場 料：一般 2,000円 学生 無料 (定員500名)

※当日受付でお支払いください

申込方法：ペシャワール会ホームページ

または裏面の申込用紙にて

要申込・先着順



↑お申込みはこちら！

5月10日

土曜日

10:15 ~

16:15

9:30開場

パキスタンでの医療活動に始まり、大干ばつのアフガニスタンで医療・灌漑事業を行なった中村哲医師の現地活動を追う『荒野に希望の灯をともし』と、彼の活動の原点である「ハンセン病」を共通点として、ハンセン病の元患者(回復者)である宮崎かづゑさんの長い道をたどる『かづゑ的』の2本のドキュメンタリー映画の上映と、それぞれを結びつけるゆかりある関係者の対話。

『劇場版 荒野に希望の灯をともし』

パキスタンとアフガニスタンで36年に亘り、病や貧困に苦しむ人々へ寄り添い続けた、医師・中村哲。戦火の中で病を治し、井戸を掘り、用水路を建設した。中村医師が記した文章と21年間継続的に記録した映像をもとに、現地活動の思索と実践をたどる。混沌とする時代のなかで、より輝きを増す中村医師の生き方を追ったドキュメンタリーの完全版。

『かづゑ的』

瀬戸内海にある国立ハンセン病療養所、長島愛生園に生きるハンセン病回復者の宮崎かづゑさん夫妻の人生に、8年間、伴走したドキュメンタリー。かづゑさんは病気の影響で手の指や足を切断、視力もほとんど残っていないが78歳でパソコンを覚え、84歳で初の著作となる『長い道』を出版。その言葉とたくましく生きてきた軌跡は、私たちの心をうつ。

主催：ペシャワール会 共催：九州大学医学部

後援：西日本新聞社

<協力>九州大学附属図書館

中村哲先生の志を次世代に継承する九大プロジェクト

九州大学サークル「哲縁会」

[お問い合わせ]

ペシャワール会事務局

〒810-0003 福岡市中央区春吉1-16-8-601

電話：092 (731) 2372 FAX：092 (731) 2373

メール：peshawar@kkh.biglobe.ne.jp

ホームページ：https://www.peshawar-pms.com

タイムスケジュール

- 9:30 開場
10:15 共催者挨拶
10:20 『かづゑ的』上映
12:20 昼休憩
13:15 『劇場版 荒野に希望の灯をともし』上映
14:55 座談会（司会 ペシャワール会会長 村上優）
16:15 閉会

※途中入退出可

座談会登壇者プロフィール



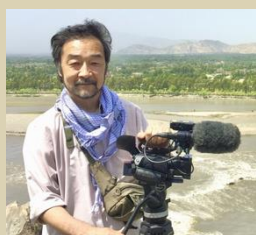
喜多悦子 笹川保健財団会長

医師。国際保健医療分野に従事。1988年ユニセフ・アフガンプログラム事務所（ペシャワール）勤務、以来中村哲医師一家と親交。国立国際医療研究センター、WHO、日本赤十字九州国際看護大学学長を歴任後、2013年ハンセン病対策事業に取り組む笹川記念保健協力財団理事長、17年同会長。



熊谷博子 『かづゑ的』監督

映画監督・映像ジャーナリスト。アフガニスタンを舞台にしたドキュメンタリー『よみがえれカレーズ』（1989年土本典昭と共同監督）や、『三池 終わらない炭鉱(やま)の物語』（2005年）、『三池を抱きしめる女たち～戦後最大の炭鉱事故から50年』（2013年）、『作兵衛さんと日本を掘る』（2019年）など、戦争や炭鉱事故等の社会問題を追ったドキュメンタリーを多数制作。



谷津賢二 『荒野に希望の灯をともし』監督

1994年に日本電波ニュース社入社。95年から98年まで日本電波ニュース社ハノイ支局長。1998年に中村医師のヒンズークシュ山脈での巡回診療に同行取材して以来、2019年まで長年にわたり中村医師の活動の軌跡をカメラに記録。現地滞在は450日を超え、撮影した映像は1000時間に及ぶ。

お申込み

申込フォームまたは、本用紙にてペシャワール会事務局までお申込みください。
4月中にお申込みの方には、**受付ハガキ**をお送りしますので、**当日ご持参ください**。
5月にお申し込みの方には、ハガキは送り返しませんので、**受付にてお申し出ください**。

↓申込フォーム



フリガナ
ご氏名

電話番号

ご住所

〒.....

学生の方はお記入ください 学校名

FAXはこちらまで：092-731-2373